

学童保育の未来は

横浜

畑野比例補迎え集い



政府の「社会保障・税一体改革素案」をもとに作成したグラフを示し解説する、畑野氏（起立している人）＝6日、横浜市技能文化会館

日本共産党横浜学童保育後援会は6日、横浜市中区で、学童保育の未来を考える集いを開きました。

畑野君枝衆院南関東比例候補が講演し、「子ども・子育て新システム」について、国の財政措置は包括的で学童保育への充度が保証されないなどの問題点を指摘しました。

また、消費税について「貧しい人に一番重

くかかる、不公平な税だ」と説明し、消費税増税にたよらなくても、社会保障と財政の建て直しができることを、党の「提言」にもとづいて示しました。

白井正子市議が市政報告をしました。民間参入が進む保育園では突然の閉鎖などの問題が起きていると指摘して「新システムを許してはいけない」と述べました。

参加した女性指導員は、児童数で金額が決まる現在の助成制度では安定した運営ができないと話し「定年まで指導員を続けたいけど、20年後に学童はあるのか保証がない」と訴えました。